

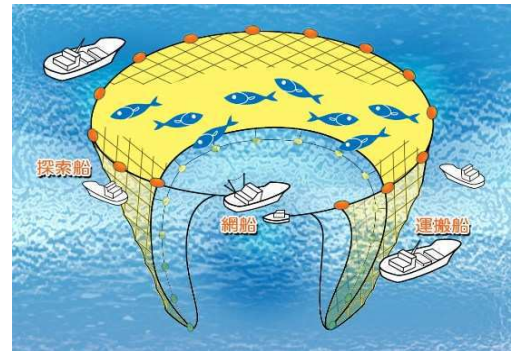
# 鳥取県の主な漁法

## (沖合漁業)

### 大中型まき網漁業

主にアジ・サバ・イワシ類等の多獲性浮魚類を漁獲する大規模漁業で県内の水揚量の大部分を占める主要漁業である。

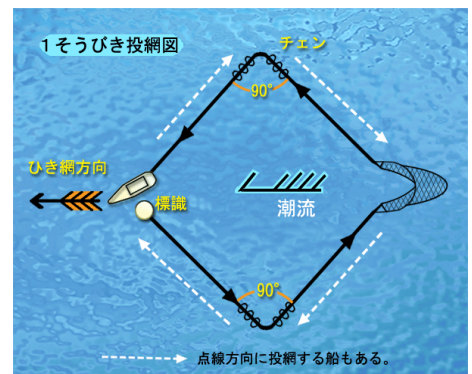
漁期	周年
経営体数	2 (3船団) (平成21年)
経営体の根拠地	境港市
主な使用漁船	135トン、1838kw (網船)
乗り組み員数	1船団 (5隻) 50~55名 網船 20~25名 探索船 (灯船) 約5名/隻 運搬船約 約10名/隻
1 航海日数	網船約3~5日、運搬船1,2日
漁法	1船団5隻 (網船1隻、運搬船2隻、探索船2隻) で操業し、長さ約2000m、高さ約100mもの大きな帯状の網で魚群を取り囲み、底の網を絞り込んで漁獲する
主な漁場	九州西沖から日本海沖合
主要水揚港	境漁港
主な対象魚種	マアジ、マサバ、マイワシ、ブリ クロマグロ等



### 沖合底びき網漁業 (1そうびき)

深海に棲息するカレイ類等の底魚を漁獲する。ズワイガニ等値段が高い魚種を漁獲対象とするため水揚量に比べ水揚金額が高いのが特徴。

漁期	9月~翌年5月
経営体数	28 (平成21年)
経営体の根拠地	岩美町、鳥取市
主な使用漁船	85トン、700kw (平均)
乗り組み員数	8~10名
1 航海日数	3~6日
漁法	「かけまわし」漁法という独特の漁法。四角形を描くように船を走らせながら袋状の網を海に入れ、約60分程度主に水深150~500mの海底で網をひき廻して漁獲する。
主な漁場	隠岐諸島の東方、北方、西方海域
主要水揚港	網代漁港、鳥取港、境漁港
主な対象魚種	ズワイガニ、アカガレイ等カレイ類 ハタハタ、クロザコエビ等深海性エビ類 エッチュバイ等深海性巻貝。



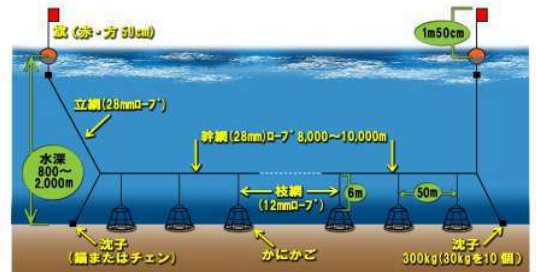
# 鳥取県の主な漁法

## (沖合漁業)

### ベニズワイガニ網漁業

日本海の超深海からベニズワイガニのみを漁獲する漁法。資源管理のための種々な取り組みを実践している。

漁期	9月～翌年6月
経営体数	3 (平成21年)
経営体の根拠地	境港市
主な使用漁船	134トン、588kw (平均)
乗り組み員数	10名前後
1航海日数	7～10日
漁法	直径約1.3m、高さ0.8mの籠に餌のサバ等を吊るし入れ、それをロープに縛って水深800m以深の深海底に沈めて、餌に集まってくるベニズワイガニを漁獲する。現在は1700mより深い海底での漁獲は自主的に規制している。
主な漁場	大和堆、隠岐堆、新隠岐堆
主要水揚港	境漁港
主な対象魚種	ベニズワイガニ



籠数は、1連に180個取り付けれる。

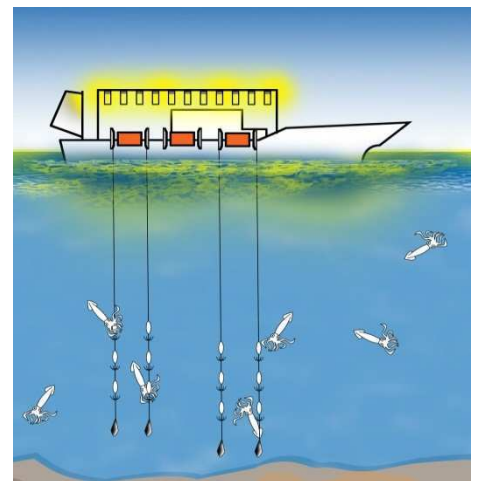


籠には脱出口を設け、小型のカニを逃がしている。

### イカ釣漁業 (沿岸漁業も含む)

本県ごく沿岸域から日本海中央海域まで幅広く出漁しイカ類を漁獲。日本海沖のスルメイカ漁場が開発された1970年には、境漁港だけで約4万トンの水揚げがあった。

漁期	周年 (県内船)、5月～翌年2月 (県外船)
経営体数	112 (2008年漁業センサス)
経営体の根拠地	境港市、岩美町、琴浦町等
主な使用漁船	3～10トン (沿岸) 19トン (沖合)
乗り組み員数	1名 (沿岸)、3～4名 (沖合)
1航海日数	1日 (沿岸)、2～3日 (沖合)
漁法	夜間に集魚灯でイカを集め、擬餌針で釣あげる。発電機を作動させ集魚灯に必要な電力を確保するため燃油消費量が他の漁業に比べ多いので、近年の燃油高騰により省エネ化が求められている。鳥取県沿岸～沖合、大和堆等
主な漁場	境漁港、赤碕港、鳥取港、網代漁港
主要水揚港	境漁港、赤碕港、鳥取港、網代漁港
主な対象魚種	スルメイカ、ケンサキイカ、ヤリイカ



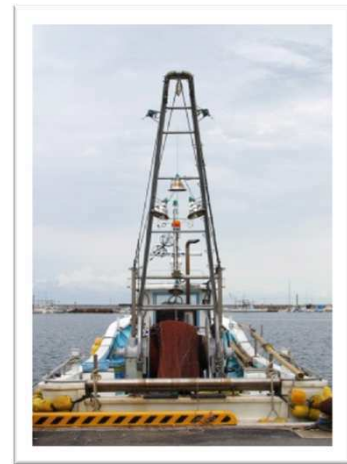
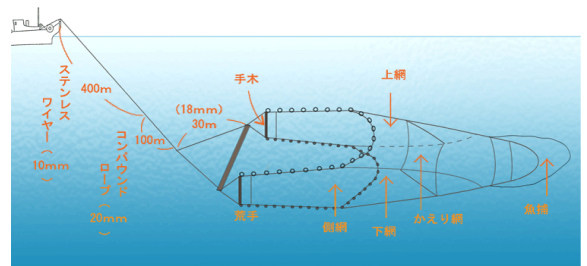
# 鳥取県の主な漁法

## (沿岸漁業)

### 小型底びき網漁業

「ケタ網」と言われ、かつては本県沿岸漁業を代表する基幹漁業であったが、ヒラメ等の漁獲対象資源の減少により経営体数も大きく減少した。

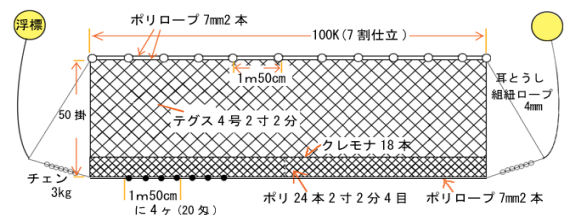
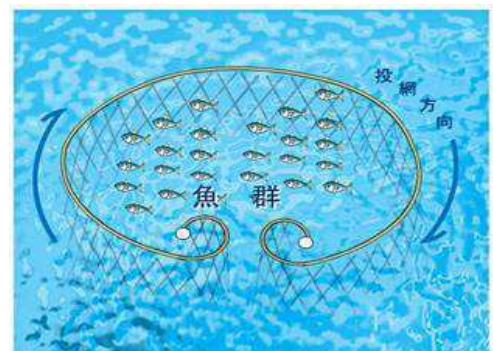
漁期	5月～翌年2月（県西部） 6月～翌年3月（県東部）
経営体数	50（2008年漁業センサス）
経営体の根拠地	境港市、鳥取市、岩美町、 湯梨浜町、琴浦町等
主な使用漁船	5トン未満 94kw（美保湾）、220kw（その他）
乗り組み員数	1名
1航海日数	1日
漁法	ケタと呼ばれるFRP製のビームを開口装置として取り付けた袋状の網で水深30～100mの海底をひいて漁獲する。
主な漁場	鳥取県沿岸
主要水揚港	境漁港、赤碕港、鳥取港、田後港
主な対象魚種	ヒラメ、メイタガレイ、ムシガレイ等



### 刺網漁業

古くからいくつもの刺網が行われていたが、ハマチやサワラ等の本県への来遊の増加に伴い今では本県を代表する基幹漁業となっている。

漁期	周年
経営体数	164（2008年漁業センサス）
経営体の根拠地	鳥取市、湯梨浜町、琴浦町 大山町、米子市等
主な使用漁船	10トン未満
乗り組み員数	1～2名
1航海日数	1日
漁法	固定式刺網、流刺網、まき刺網 こぎ刺網があり、魚道を遮断するように網地を張り下ろし、魚群を網目に刺させたり、網地に絡ませて漁獲する。
主な漁場	鳥取県沿岸
主要水揚港	酒津漁港、泊漁港、赤碕港、 御来屋漁港、淀江漁港他
主な対象魚種	マダイ、ハマチ、サワラ、マアジ ヒラメ、トビウオ、キス等



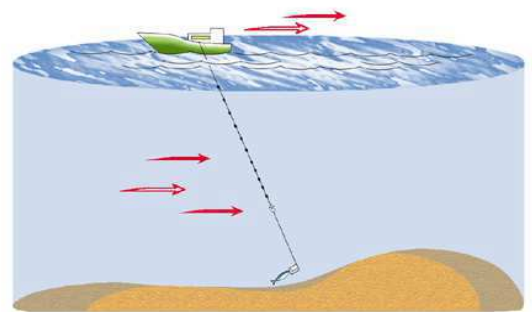
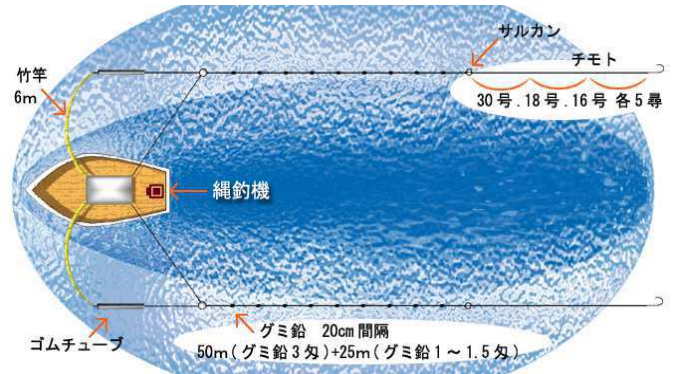
# 鳥取県の主な漁法

## (沿岸漁業)

### 釣漁業

一本釣、ひき縄釣により砂底ではヒラメ等、岩礁域ではキジハタ、マダイ等、表中層域では、ハマチやサワラが漁獲される。

漁期	周年
経営体数	212 (2008年漁業センサス)
経営体の根拠地	鳥取市、岩美町、湯梨浜町、 琴浦町、大山町、米子市 湯梨浜町、琴浦町等
主な使用漁船	5トン未満
乗り組み員数	1名
1航海日数	1日
漁法	釣場の環境や対象とする魚種により多種多様な漁法が行われている。 近年ではサワラの来遊量が急増したため、サワラのひき縄釣が盛んである。
主な漁場	鳥取県沿岸
主要水揚港	鳥取港、泊漁港、赤碕港、 御来屋漁港、淀江漁港
主な対象魚種	ヒラメ、キジハタ、マダイ、 ハマチ、サワラ、マアジ、スズキ等



# 鳥取県の主な漁法

## (内水面漁業)

### シジミ漁

本県の内水面漁業を代表する漁業で漁獲量、漁獲金額とも突出している。

本県中部の東郷池でジョレンと呼ばれる金属製の漁具を用いて人力で池の底を引きかいて漁獲する。



その他の本県の内水面漁業は、河川上流域でのマス類の養殖、休耕田等を利用したホンモロコ養殖、県東部の湖山池でタモ網漁や定置網漁、さらに伝統漁法である石がま漁が営まれている。